

一〇二二年一月一二日

駄菓子屋に夫とより道路地の春

なつき

二ヶ月の雪に晒して草木染

凡士

ジヨギングの靴も新調寒明くる

愛正

末黒野の道の青きを踏みにけり

よう子

立春の陽に浮き出でし句碑の文字

うつぎ

あひ誘ひ合ひ立春の野に集ふ

うつぎ

春めくや地球儀廻し旅ごころ

かかし

丘の上の園記念樹の梅開く

はく子

田起こしの黒き土塊力満つ

よう子

薄氷の鳳凰堂を映しけり

凡士

たんぽぽに弾む一会の会話かな

小袖

マスクしてコロナ失せよと豆を打つ

よし子

上りきし古墳の丘の梅開く

はく子

降り止まず除雪車も立ち往生す

こすもす

源流のかそけき水の温みけり

かかし

早春のせせらぎを聞く白杖子

むべ

春立ちて川面にゆらぐ陽の光

よし子

妙見の山烟らせて野を焼ける

うつぎ

枯れ果てしごとき盆梅蓄持つ

わかば

暖かき雨へ首伸ぶきりんかな

素秀

村息吹くごとおちこちと野を焼ける

よう子